

目的 衣服に裏地をつける目的は種々あるが、表地に比べ裏地の特性が表地におよぼす効果等を考慮し、目的に適合した選択がなされることは比較的少ない。裏素材が衣服造形におよぼす効果には表地とのなじみややすさ、形態保持性等があるが、本報では裏素材の特性把握ならびに形態保持性すなわちたれ下がり効果について検討した。

方法 1) 試料は市販の中から利用度が高く、外観および繊維組成の異なる12種を選び、厚さ、質量、引張特性、曲げ特性、せん断特性、表面特性およびドレープ特性等の物性を測定した。測定方法はJIS-L-1096および風合試験法によった。2) 胸囲、腰囲を円とした1/2大の人台に円形スカートを垂下させ、24時間、1、2、3、4、5週間経過時の外観効果を人台の下方および側面から写真撮影し、ム曲線の形状からノード数、山の高さ、山間の角度を測定し、平均および変動率、ムのひろがり面積を求めた。たれ下がりの長さはマルチン人体計測器を用い実測した。各試料ともに3回の平均である。

結果 1) 試料間変動の大きい物性は衣服造形にかかわりの大きい曲げ、せん断、引張の特性にみられた。2) スカートの外観効果は試料、垂下時間に有意差がみられ、垂下時間が大になるほどたれ下がりは大で、ムのひろがり面積は小さくなる傾向がみられた。また布目方向ではバイアス方向のたれ下がりが大であった。3) たれ下がり効果はドレープ特性との相関が高く、また繊維組成による差が顕著で、ポリエステル、ナイロンの裏地は山の高さの平均、山間の角度の平均およびムのひろがり面積は大で、しかも垂下時間による形状の変化は小さく、形態保持性がよい。